



余別・海HUGくみだい

北海道の西海岸につき出る積丹半島の先端に位置する余別海域は、昭和40年頃から磯焼けが起こり、身の色が悪く、成長の遅れたウニが増え、漁獲が減少しています。磯焼けの原因は、ウニの食害、栄養塩不足、海藻胞子不足と考えています。そこで、青年漁業者が中心となって、「森・川・海」の栄養循環を促し、コンブの森を回復させる活動を行っています。

○活動組織の概要

発足年月日：平成22年6月30日
 構成員（平成30年1月現在） **110名**
 東しやこたん漁協積丹地区浅海部会 **93名**
 積丹支所青年部 **12名**
 漁協役職員 **5名**

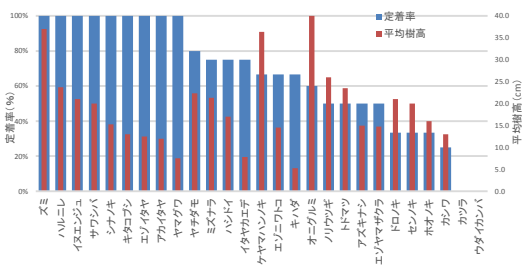
多様な在来種が混交する自然林を再生するため、サポート専門家の岡村先生（北海道科学大学名誉教授）の指導のもと、生態学的混播・混植法（コンパ法）による植樹活動を実施中。



※生態学的混播・混植法（コンパ法）とは、出来るだけ「自然まかせ」にすることで、その場所の環境にあった自然林を作ることができる植樹手法です。

その場の自然林から種を採集し①、種まきを行い②、1年（種類によっては数年）かけて発芽させ③、複数種類の苗を作ります④、倒木後の空地（根返り跡）に見立てた円形のユニットをつくり⑤、10種類の苗を植えます⑥。苗は自然の中で育ち・淘汰されながら⑦、最終的にその場所に適した樹木が残り自然林を形成します。

今年までに11ユニットで**32種110本**を植樹し、植樹後の定着率は**65%**です。



森

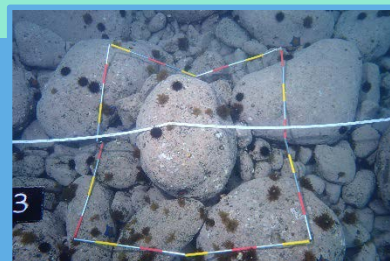


植樹後は、毎年モニタリングを行い樹木の成長を確認しています。
 ・ミズ、ケヤマハンノキ、オニグルミは成長が良く、現地の環境にあっていと考えられます。
 ・定着率が高いものの樹高が小さい種類は、成長に時間がかかるタイプの可能性も考えられるので、継続してモニタリングを行います。



余別川を通じた森と海の栄養循環を担う、サクラマスを放流しています。サクラマスは、樹木から落ちた昆虫や水生昆虫を食べて川で成長し海へ出ます。そして、海の栄養を体にたくさん蓄え、産卵のために遡上します。産卵後、熊などにより陸に上げられ動植物の栄養となります。

藻場の回復のため、毎年、数万個のウニを取り上げて別の場所へ移植しています。ウニ密度は低下していますが、7.8~12.2個/m²程度とまだ高密度であり、海藻が生えていない状態です。今後はウニ除去範囲を絞って集中的に除去することにより、まずは小規模な藻場を回復させてから徐々に拡大して行きたいと考えています。



川海

